

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076100108
法人名	有限会社 グループホームほほえみ
事業所名	有限会社 グループホームほほえみ
所在地	福岡県飯塚市大分1442-9 (電話) 0948-72-3734

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年12月1日	評価確定日	平成20年2月8日

【情報提供票より】 (平成19年11月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 2人, 非常勤 9人, 常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷 金	有 (円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年11月13日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青山医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は閑静な新興住宅地の中に位置しており、代表者が「自分が老いても安心して暮らせる場をつくりたい」という思いから、自宅を改築して作った民家型1ユニットの事業所である。職員は利用者の尊厳を尊重しながら、利用者や家族のような関係づくりに努めており、また、代表者及び管理者は、利用者に対して「生活の質の向上を目指したケア」が出来るよう、職員の指導に力を入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、職員ミーティングの中で検討し、「前回評価票の指摘改善票」を作成して、各種マニュアルの作成や介護計画書に家族の同意をもらう等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が骨子を作成して、全職員の意見を聴取し、集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をし、委員からの意見を聴取してサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	事業所以外の第三者相談窓口を説明し、家族等に意見・不満が表せる機会づくりとして、意見箱の設置や家族の来訪時に意見等を聴くよう声かけに努めている。家族から出された意見・要望については、季節に応じた花見等の外出を増やす等、意見を反映させるよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、清掃・廃品回収等の地域活動に参加している。また、学生ボランティアの受入れがある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、地域に溶け込むよう努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回、定例の職員会議及び日頃の業務の中で、理念に沿ったケアが出来ているか振り返る機会を持っている。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、清掃・廃品回収等の地域活動に参加している。また、学生ボランティアの受け入れがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が骨子を作成して、全職員の意見を聴取し、集約している。また、前回評価での改善課題については、職員ミーティングの中で検討し、「前回評価票の指摘改善票」を作成して、各種マニュアルの作成や介護計画書に家族の同意をもらう等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をし、委員からの意見を聴取してサービス向上に活かしている。	○	今後は、行政担当者との会議の運営について十分に連携を図り、実施してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は市介護保険担当者から、必要に応じて運営に対する助言・指導を受けている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は制度についての研修を受講しているが、利用者・家族等への説明は特に行っていない。	○	利用者・家族等に対して、パンフレットを用いる等して、制度に関する説明を行う機会を設けてほしい。また、研修資料等については、職員がいつでも確認出来るように事業所で保管してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回、事業所便りの発行をしている。利用者の暮らしぶりについては、家族の来訪状況に応じて、3～4ヶ月に1回、もしくは必要に応じて口頭や手紙・写真で、状況報告を行なっている。金銭管理については、月1回、領収書等を送付して報告を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所以外の第三者相談窓口を説明し、家族等に意見・不満が表せる機会づくりとして、意見箱の設置や家族の来訪時に意見等を聴くよう声かけに努めている。家族から出された意見・要望については、季節に応じた花見等の外出を増やす等、意見を運営に反映させるよう努めている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員から個別に話を聴いたり、コミュニケーションを十分に図る等、異動や離職を抑える努力をしている。また、職員が離職等した場合、利用者へのダメージを防ぐために、職員間の引継ぎ期間を十分に設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等を理由に排除することなく、働く意欲・態度等の仕事に対する姿勢を重視している。また職員の職場環境において、差別なくその能力を発揮して生き生きとして勤務できるように配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>代表者は、人権尊重の意識向上のため、職員の教育・啓発のために、人権研修参加の機会を設けている。研修に参加した職員は、他職員に伝達研修を行い、研修内容を伝えている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員育成のために研修受講の機会の確保に努めている。また管理者は、職員に応じた研修が受けられるよう、一定の職員に偏ることなく振り分けて受講させている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協議会に加入している。県グループホーム協議会筑豊ブロックでは、月1回、各事業所の輪番制による定期的な研修会を実施し、同業者との交流の機会を持っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族等と十分な話し合いを持って状況把握に努め、体験入所を行う等し、本人・家族等が納得の上でサービス利用ができるように努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から肩もみをして労ってもらうことがある等、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情から利用者の思いや意向を把握している。また、家族の来訪時に、家族からの意向把握にも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の思いや意向及び全職員の気づきを取り入れて、作成している。家族へ説明を行い、同意の押印を貰っている。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、他の利用者と共に病院へお見舞いに行き、不安のないように支援している。家族との連絡を密にして、病状等の情報を得ている。更に、24時間連絡が取れる在宅医療支援医療機関との連携を行い、早期退院に向けて積極的に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の希望を聴取し、希望するかかりつけ医への受診を支援をしている。体調の変化があった場合は、その都度家族に連絡している。定期受診以外に長期通院が必要になった場合は、通院方法を家族と話し合っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について方針があり、入居時に家族・本人に説明を行い、書面で合意を図っている。折に触れて、終末期までケアできる方法を医師、職員とも話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導はさり気なく声かけしているが、管理者が職員の言動を確認する等して、プライバシーを損ねない対応に努めている。ミーティングでは、外来者に対しての個人情報の取り扱いについて話している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかな流れはあるが、利用者の健康状態や天候等に配慮しながら、利用者の希望に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に配膳や食器の片付けを行っている。職員は食事時の見守りを行っているため、利用者が食事が終わってから同じ内容の食事を摂っている。	○	利用者と職員が共に暮らす視点から、同じテーブルで一緒に味わいながら、食事をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようにし、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴支援をしている。入浴を拒否する利用者に対しては、言葉かけを工夫する等している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の役割を把握し、郵便受けの新聞・手紙を取る、テーブルを拭く、食事の準備をする、洗濯物をたたむ等、利用者それぞれの役割支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調や希望に応じて、ほぼ毎日の散歩、月2回程度の買い物、年に数回の夕食、ドライブは季節の花見をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関の施錠はしていない。職員は外出傾向のある利用者を把握し、状態の変化や行動に配慮し、外出した時は利用者が落ち着くまで職員が同行している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て、避難訓練及び救急蘇生法の指導を受けている。非常用備品を準備している。	○	今後はいざという時のために地域住民の参加や協力も得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常用食料を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の食事摂取量及び水分摂取量の記録がある。献立メニューの記録を基に管理栄養士のアドバイス・チェックを受け、栄養バランスや利用者の希望も取り入れた献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの居間を中心とし、利用者作成の折り紙作品を飾る等、家庭的な雰囲気に配慮している。不快と感じる音や光はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族が持ってきた花や孫の遊び道具・小物入れ・時計・写真・シルバーカー等を置き、利用者ごとに居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※ は、重点項目。